

科目名		産業衛生学特論	
科目責任者		(産業衛生学専攻委員長)	
担当者	西田 千夏、	担当者	和泉 弘人、
担当者	大神 明、	担当者	岡崎 龍史、
担当者	中谷 淳子、	担当者	盧 溪、
担当者	安藤 肇、	担当者	姜 英、
担当者	井上 彰臣、	担当者	宮内 博幸、
担当者	樋上 光雄、	担当者	河村 洋子、
担当者	立石清一郎、	担当者	永田 昌子
担当者		担当者	藤澤 浩一、
		担当者	香崎 正宙、
		担当者	江口 尚、
		担当者	庄司 卓郎、
		担当者	石田尾 徹、
		担当者	東久保一朗、
		担当者	李 云善、
		担当者	石丸 知宏、
		担当者	真船 浩介、
		担当者	財津 將嘉、
		担当者	永田 智久、
		担当者	川波 祥子、
開講時期： 1年次		単位数 2 単位	時間数： 90分× 15 回
● 科目の教育目標 一般目標 (GIO) 産業衛生に関わる討論会において、様々な研究課題に対する多面的に研究アプローチが行えるための基礎的論理構成、考察の仕方を習得するのが目的である。さらに各種の研究テーマの産業医学的背景や意義を理解し、学術論文作成のための基礎的思考能力を養う。 行動目標 (SBOs) 1) 職業や作業に内在する発がん要因の特定と発生メカニズムを積極的に探索できる。 2) 吸入性化学物質による肺障害の発生機序や病態生理を積極的に探索できる。 3) 産業保健の課題をマネジメントシステムまたはマーケティング手法を用いて積極的に探索できる。 4) メンタルヘルス不調の課題に対して評価・解析手法を積極的に探索し、評価できる。 5) 対象者の特性に合った健康管理や健康保持増進プログラムの実践評価手法に対して積極的に探索し、評価できる。 6) 疾病に伴う職業性因子を解明する手法や評価法を積極的に探索し、評価できる。 7) 放射線による生体影響に関する評価分析法を積極的に探索し、評価できる。 8) 産業衛生学における医学概論的・倫理的思考性を積極的に探索できる。 9) 労働者の健康課題を個別に評価し、仕事と健康を両立できるための支援を行うための思考性を養う。 10) 労働環境における有害要因の発生機序、計測・制御法を積極的に解明する思考性を養う。 11) 作業環境や作業工程に存在する健康有害性要因を積極的に解明する思考性を養う。 12) 人間工学的思考性を積極的に養う。 13) 産業現場に内在する有害性要因に対してリスクアセスメント的思考性をもって解決する思考性を養う。 14) 職場で発生する危機事態において、労働者の健康を確保しながら事業継続のために必要な対応を支援する方策について、エビデンスと知見をもとに積極的に対策できる。 15) 様々な労働現場から労働衛生管理の立場から積極的に課題を探索し、解決する思考性を養う。			
● 評価方法	討論会での討論50%、発表50%等で総合評価する。		
● 参考文献	討論会で必要に応じて紹介する。		

● 授業計画(毎月 第3 月曜 17時～)

回	項目	内容	担当教員
1	産業衛生学の概要と倫理	職業性疾病や作業関連疾患の予防や就業との関連、労働衛生管理のあり方など総括的に議論する。研究遂行および産業保健の現場に潜む様々な倫理的問題や課題を検討する。	専攻委員長
2、3	職業病態学領域の課題とその解決法	職業性疾病における病態やその機序に関する仮説、方法論、科学的解析、結論を導く思考性を検証し、思考過程を理解する。	西田 和泉 藤澤 李
4、5	有害業務管理学領域の課題とその解決法	作業環境における有害物質の物理化学的特性を解析するための仮説、方法論、科学的解析、結論を導く思考性を検証し、思考過程を理解する。	大神 岡崎 川波 香崎 安藤
6.7	産業疫学・医学概論領域の課題とその解決法	職業関連疾患、職業性疾病における健康管理、生活習慣、生活環境のあり方を解析するための仮説、方法論、科学的解析、結論を導く思考性を検証し、思考過程を理解する。	石丸 中谷 盧 井上
8、9、10	産業健康科学領域の課題とその解決法	社会的にニーズの高い産業衛生学上の課題に対して、仮説、方法論、科学的解析、結論を導く思考性を検証し、思考過程を理解する。	江口 真船 大和 姜 庄司 財津
11、12	産業衛生工学領域の課題とその解決法	実際の作業環境における個々の課題に対して仮説、方法論、科学的解析、結論を導く思考性を検証し、思考過程を理解する。	宮内 東久保 樋上 石田尾
13、14、15	産業保健マネジメント学領域の課題とその解決法	実際のマネジメントにおける個々の課題に対して、仮説、方法論、科学的解析、結論を導く思考性を検証し、思考過程を理解する。	永田(智) 河村 立石 永田(昌)